

理 事 会 議 事 録

日 時：1999年1月15日（金） 11時00分～17時00分

場 所：国立天文台 三鷹 講義室

出席者：

（1）旧理事

奥田、岡村、定金、柴田（一）、田中、紀伊、尾中、加藤、末松、有本、沢、
田原、大橋、柴田（晋）、福島 出席者15名 欠席者 なし

（2）新理事

尾崎、小山、大石、立松、吉川、上野、大谷、山岡、橋本
出席者9名 欠席者 2名うち委任状1名
（柴田（一）、紀伊、有本、沢各理事は新理事兼任）

議事に先立ち、奥田前理事長より挨拶があり、その後署名人を選出

議長：尾崎洋二

署名人：柴田一成、大石雅寿

議事の経過及び結果

1. 前回（1998年10月3日）の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 1998年度事業報告について大石庶務理事より説明が行われた。会計年度が1月1日より12月31日までになったこと、初めて開催された特別講演会、IAU京都総会記念基金の創設、及び、春秋の年会、それぞれ4回開催された評議員会、理事会などに関する報告があり、質疑応答ののち承認された。
3. 1998年度収支決算報告・監査報告について紀伊会計理事より説明が行われた。消費税の扱い方を変更したこと、IAU記念基金についてはその設立趣旨に鑑み早めに使う予定であること、などが述べられた。研究奨励賞、早川幸男基金、林忠四郎賞については、財源にくらべて支出額が少ないとの指摘があった。他質疑応答ののち承認された。
4. 新入正会員の名簿が紹介され、31名全員の入会が承認された。
5. 1999年春季年会会期中の各種行事について吉川年会理事より報告があった。講演申し込みは447件であり、6会場で口頭発表を行う。また、大谷年会理事より年会の準備状況に関する報告があった。研究奨励賞受賞記念講演は受賞者が2名になる場合を想定して準備していることが報告された。なお、研究奨励賞受賞者の選定方法については、その原則をはっきりすべきであるとの指摘があった。
6. 年会時に開催される記者会見の内容を報道機関がどのように報道するかについて学会としてどのような態度をとるべきか、について柴田庶務理事より問題提起があった。

活発な議論の結果以下のことが決定された。

☆基本的に、記者会見内容をいつ、どのように報道するかは各報道機関の判断に任せ、学会が何らかの判断をすることはしない。

☆学会として報道時期などに何らかの制約を加えざるを得ない場合もあることを確認した。――国際共同研究による成果を研究参加国で同時発表する場合など――このような場合はその旨各報道機関に理解をしていただけるよう、しっかり連絡を行う。

7. PASJの出版・電子化について、有本欧文研究報告理事より説明があった。

(1) 電子出版を委託する会社がElsevierからUAPに変更になった経緯が説明された。電子出版開始は3月頃になりそうである。

(2) 電子出版を促進するため2年間投稿料を半額にすること、また、電子投稿を99年1月より開始したことが報告された。

8. 旧理事会からの引継ぎ事項について下記のような議論があった。

(1) 年会の運営方式(年会日数、会場数)について

講演数の増加により年会の規模が大きくなっている。これに対処する方法として、年会日数を増やす、パラレルセッションの会場数を増やす、ポスター発表を充実させる、などの方策が提案された。それぞれについて賛否の意見が出され、これを踏まえて年会実行委員会で検討することになった。また、年会時に招待講演を実行するかどうかも同委員会で検討することとなった。

(2) 天体発見賞の細則変更希望について

アマチュア観測家の活発な観測により同一の方による複数の超新星の発見が行われた事実を踏まえ、天体発見賞の贈呈のあり方、また、新天体の種別などに関して種々議論があり、これを踏まえて細則変更を検討することとなった。

(3) 内地留学奨学金内規の改善について

98年度の内地留学制度応募者がなかった原因が、その内規にあるのではないかとの意見が出された。今後検討の上改善を図ることとなった。

9. その他

(1) 教育委員会の委員構成の再編について

98年10月の理事会で承認された1999年-2000年の教育委員会の委員構成であるが、新委員会発足前の磯部委員(予定)の個人的事情により、委員構成を白紙撤回して再度委員の選定を行うことになった。新委員会の構成は、沢教育理事(委員長)、加藤万里子氏、平野尚美氏、山縣朋彦氏、縣秀彦氏、毛利勝廣氏となった。

(2) 学会活動の拡大に伴い、学会事務室が手狭になった。改善するため、庶務理事より国立天文台建設委員会に要望することとなった。

(3) 定款には各種委員会に関する規定が必ずしも整っていないため、委員会の位置付けにあいまいさがある、委員の任免、など不都合が生じている。これを改善する方向が確認された。

(4) ある会員より、「正会員・準会員の定義を定款に明確に書いてほしい」との要望があった。定款改定には時間がかかること、学会入会案内にかかっている正会員・準会員の定義が必ずしも定款の定義と一致しないこと、が指摘され、すぐにできることとして天文月報の入会案内を改定する方向で対応することとした。

(5) 早川幸男基金の運営については常勤研究者は対象外となっていたが、より柔軟に対応して基金の趣旨を生かすべきではないかとの指摘があった。

(6) 加藤万里子氏より、女性科学者に関するアンケートを行いたいとの申し出があり、承認された。

議長 尾崎洋二
署名人 大石雅寿
署名人 柴田一成

